

情報セキュリティ教育カリキュラム（モデル） 作成にあたって

1．情報セキュリティ教育の必要性

ネットワーク社会の進展とともに、情報システムをめぐるリスクが発生した場合の影響を与える範囲が急激に広がってきている。このため、情報セキュリティがより重要性を増している。今日、情報資産をめぐる脅威に対しては、情報セキュリティ技術の高度化、法律やガイドラインの整備、セキュリティポリシーの策定等、さまざまな対応が講じられてきているが、一方では不正行為も高度化・多様化しており、いたちごっこの感が否めない。したがって、情報技術、管理および法律等によって情報セキュリティを強化することは当然のことであると一般的に認識されるようになってきている。しかし、情報セキュリティは、究極的には“人”の問題に帰結する。ここに情報セキュリティ教育の重要性が存在するといえる。

本情報セキュリティ教育カリキュラム（モデル）は、情報セキュリティ教育の普及・充実に役立てるために、広く関係各方面にて参考にしていただけるよう、汎用的に作成している。したがって、必要性があれば各組織体が自由に修正を加えたり、一部をピックアップして利用するなど、活用については工夫をしていただきたい。

2．本カリキュラムの狙いと構成

情報セキュリティ教育は、社会人はもとより学生（大学生、高校生）に対しても必要であるとの認識に立ち、本カリキュラム（モデル）を作成した。本カリキュラム（モデル）を社会人に対して利用するか、学生に対して利用するかは、教育内容の深度を考慮することで対処すべきであると考えている。個別内容の必要性については、基本的には誰でもわかっていることであると思われる。本カリキュラム（モデル）は、情報セキュリティ教育という観点から、体系化を図ったものである。したがって、本カリキュラム（モデル）の各項目については、インストラクター用のガイドとして、「指導すべき内容」と「指導上の留意点」を簡単にとりまとめている。

本カリキュラム（モデル）の構成は次のとおりである。

- 第1部 情報セキュリティの基礎：情報セキュリティとは何かを中心に、情報セキュリティの基礎となる内容で構成している。
- 第2部 管理的セキュリティ：情報セキュリティの管理的要素について、基本的事項ならびに重要事項となる内容で構成している。
- 第3部 システム的セキュリティ：アクセスコントロールをはじめ、情報システムに組み込んで対処する内容で構成している。
- 第4部 物理的セキュリティ：情報資産を保護するために必要となる物理的要素の対策内容で構成している。
- 第5部 人的セキュリティ：本カリキュラム（モデル）では、人的要素を重視する観点

から、これを管理的セキュリティに含めることなく、独立して人的セキュリティという部を設定して、各層の人に対する教育内容を中心に構成している。

第6部 情報セキュリティ関連ルール：情報化の進展に伴って、情報セキュリティについても、法律、基準、ガイドライン等の整備が進んできているので、これらの主要なものについて構成している。

3．本カリキュラム（モデル）の活用の仕方

本カリキュラム（モデル）は、情報セキュリティ教育に関して網羅的にとりまとめている。実際に活用する場合は、次の諸点に留意されたい。

高等学校においては、実施している情報教育の内容を勘案して、本カリキュラム（モデル）の内容を取捨選択して利用することが望ましい。

大学においては、内容を深く掘り下げることよりも、本カリキュラム（モデル）全体を1年間で教育することが望ましい。

企業では、情報セキュリティを教育体系に組み込み、その時々々の教育テーマと時間に合わせて、本カリキュラム（モデル）の内容を適宜ピックアップして利用することが望ましい。

教育内容の深度については、それぞれの組織体における必要性を基準として考慮することが望ましい。

4．独自カリキュラム作成の必要性

本カリキュラム（モデル）は、前述のようにあくまでも汎用的に作成している。情報セキュリティの各要素における重点の置き方は、業種によっても、組織体によっても異なると思われるので、各組織体が独自に情報セキュリティ教育カリキュラムを作成することが望ましいといえる。したがって、各組織体が独自の情報セキュリティ教育カリキュラムを作成する際に、本カリキュラム（モデル）が参考になれば幸いである。